

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立西小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
学び合う子 思いやる子 たくましい子を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を育てる。 お互いを認め、支え合う集団を育てる。 ねばり強く最後までやりぬく子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>算数Aについては、県平均と比べると正答率が高い。 国語A、国語B、算数Bについては、県平均と比べると正答率は低い。 国語Aの「話す聞く」領域については8割程度が理解できているが、「書くこと」「読むこと」の領域については課題がある。 ・新聞の投書を読み、表現の仕方をとらえる。…本校50.0%(全国71.7%) 国語Bの「書くこと」の領域については、正答率が低く、無回答率が高い。 ・付箋の内容を関係付けて、まとめを書く。…本校16.7%(全国26.9%) 算数Aの各領域について一定の成果が見られるが、割合の問題については課題がある。 ・100-20×4の四則混合式の理解…本校96.7%(全国80.9%) ・割合が1より小さい場合の比較量の求め方…本校36.7%(全国54.1%) 算数Bの「図形」領域の技能や「量と測定」領域の知識・理解について課題がある。 ・適切なグラフを選択する…本校43.3%(全国61.5%)</p> <p>県</p> <p>国語は、基礎、活用とも県平均を下回り、特に「物語の読み取り」「漢字の書き」「古典に関する文章の読み取り」が低い。 社会は、活用では県を下回っているが、全体としては県平均を上回っている。 数学は、基礎、活用とも県平均を下回り、特に「図形」が低い。数と計算については県平均と同程度である。 理科は、基礎、活用とも県平均を下回り、「観察・実験の技能」「科学的な思考・表現」が低い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>自分自身のことについて、「地域の行事に参加」「失敗をおそれないで挑戦する」といった項目では、県平均を上回っている。 「発表することが得意」な児童が県平均を上回っているが、「友達にうまく伝える」「友達の意見を最後まで聞く」といった県平均を下回っている。 基本的生活習慣、規範意識、自己肯定感に関する項目では、県平均を下回っている。</p> <p>平日のテレビなどの視聴時間が「4時間以上」の割合が県平均を上回っている。 平日のゲームの時間が「4時間以上」の割合が県平均を上回っている。 携帯電話やスマートフォンを持っている児童が多く、メールやインターネットをする時間が県平均を上回っている。平日1時間以上使用する割合は2割近い。 平日の学習時間は、「1時間以上2時間未満」「30分以上1時間未満」が多い。「30分より少ない」「全くしない」児童もいる。 休日の学習時間は、県平均よりも少ない。 家での宿題、予習、復習をしている割合が県平均を下回っている。 平日の読書時間は、「1時間以上」の割合が県平均を上回っているが、「全くしない」児童が2割を超えている。</p> <p>学習めあてやふりかえり、授業中での話し合う活動は、県平均を下回っている。 算数の学習が好きな児童の割合は県平均を上回っているが、国語では、「好き」「よくなる」の割合が県平均を下回っている。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>算数では、少人数での習熟度別学習や到達度確認テストの取組により、記述式の問題に慣れ、無回答の割合が減ってきている。 昨年度末、つまり解消サポート事業で、短期であったが教育支援員を配置していただき、集中的、集約的に学力向上の支援補助ができた。 朝学習や補充学習で繰り返し練習したり、間違い直しを徹底することで、算数Aの正答率が県平均を上回った。 国語では、漢字の書き取りテストを工夫したことで、定着率が上がっている。</p> <p>国語の読む力、書く力が十分身につけていないため、他の教科でも、問題を把握したり考えをまとめたりすることが難しい。 下学年からの学習の積み上げができていない。 テレビやゲーム、メールなどの時間が長く、宿題や読書を全くしない児童もいる。家庭の協力が必要である。</p>	<p>学習規律を定着させる。 チャイム同時スタート、同時終了を徹底し、集中して学習に取り組めるようにする。</p> <p>授業の「めあて」と「まとめ」をはっきりさせるとともに、学習したことを「キーワード化」して定着を図る。 授業の中で、子ども同士で話し合い、自分たちで答えを出す活動を取り入れる。</p> <p>学年に応じた読書指導を全校で進め、様々な読み物に触れたり、語彙を増やすための取り組みを行う。 朝学習や帰る前学習などで、基礎的な学習の定着させ、漢字や計算については、下学年の内容にも取り組む。 家庭学習の量と内容の工夫をする。保護者の協力を得て、読書や家庭学習の習慣化を図る。</p>

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
<p>小3学力検査(3学期)、小4学力定着状況たしかめテスト(時期未定)、小5学力定着状況たしかめテスト(12月)で検証する。 学期毎に児童への学習アンケートを実施し、分析する。</p>	<p>全国学力・学習状況調査において、各教科の平均正答率が県平均を上回ることができる。</p>